

1. 研究課題名：里山・里地・里海の生態系サービスの評価と新たなコモンズによる自然共生社会の再構築

2. 研究代表者氏名及び所属：

渡邊 正孝（国際連合大学高等研究所）



3. 研究実施期間：平成 21～23 年度

4. 研究の趣旨・概要

開発途上国で自然資源の搾取と枯渇化が進む一方、わが国では農地や林地などの生態系の管理粗放化が進むと同時に、気候変動、食料危機、金融危機などの地球規模の変動に生態系が晒されている現在、生物多様性の価値を損なわず、自然資源を有効活用する方策を科学的に提示することが国際社会において急務となっている。

本研究課題では、特に土地利用、生態保全、バイオマス、資源循環といった観点から全国の里山・里地・里海がもたらす生態系サービス（供給機能、調整機能、文化的機能、それらの機能を支える支持機能）の管理に焦点をあて、これにミレニアム生態系評価(MA)の概念的枠組みを適用し、生態系サービスの変化要因、人間の福利への影響を評価し、生物多様性を損なわずに生態系サービスを最大化させる人為的関与の度合いを明確にする。さらに、里山・里地・里海の将来像について、将来における地域社会の定性的なタイプ化と、土地利用、人口、産業といった鍵となる定量的数値により、国土レベルの将来シナリオを作成し、新たなコモンズ（社会制度）としての里山・里地・里海の役割と自然共生社会の再構築に向けた政策を提言する。

本研究で、これまで比較的議論の進んでいない自然共生社会の中核をなす部分について科学的な観点からの提案を行うことにより、21世紀環境立国戦略で提唱された低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の統合による持続可能な社会の構築に貢献できる。そのことによって、三つの社会像の関連性をより具体的に検討することが可能となり、日本を含むアジアの持続可能な社会の構築に資する議論への貢献が期待できる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 里山・里地・里海の生物多様性・生態系サービスの保全・利用の戦略展開（国連大学高等研究所）
- ② 生態系サービスの変化に関する直接・間接的要因の分析 ((独)国立環境研究所)
- ③ 長期的・広域的な視点からみた里山・里地・里海の定量的な評価（横浜国立大学）
- ④ 里山・里地における生物多様性と多面的機能の統合的な評価（東京大学）
- ⑤ 里山・里地・里海の文化的価値の評価（人間文化研究機構総合地球環境学研究所）

## 6. 研究のイメージ

